



「2011年秋季 JNN 社長会」で 石原社長が基調報告

9月15日(木)、ホテルオークラ東京において「2011年秋季 JNN 社長会」が開催され、石原社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

<東日本大震災>

東日本大震災により被災された地域の、IBC 岩手放送、東北放送、テレビユー福島の3局の皆さんに、改めてお見舞いを申し上げますと共に、震災以降のご努力に敬意を表したいと思う。また、3月11日の大震災以降、JNN 各局から、取材においても、また、水、食料、燃料などの支援物資においても大変なご協力を頂き、改めて JNN の結束力の強さを再確認した。

震災後半年を過ぎたが、復興計画の実施も遅れまだまだ被災地の皆さんのご苦労が続いている。5月、気仙沼に JNN の臨時支局を立ち上げ、各局からご協力を頂きながら取材を続けている。福島原発についても、長期的な体制で取材を継続しており、JNN 全体で腰をすえて取り組んでいきたい。

7月に東北六魂祭とコラボレーションした『音楽の日』という長時間の番組を放送したが、視聴率的にも健闘し、微力ながら被災地の皆さんに応援メッセージを送ることが出来たと思う。

<震災後の経済情勢と各局の状況>

欧州のソブリンリスクと急激な円高、株価の低迷など、景気の先行きは一段と不透明な状況だ。スポットについては第2クォーター以降、回復基調にあるが、10月以降のタイムは、苦戦している状況。当初予算では下期に高い増益を見込んでいたが、営業の現場からは相当厳しい見通しが上がってきており、現在、全体の経費の見直しを進めているところだ。

<視聴率動向>

最悪の状況は脱しつつあるものの、まだまだ満足できる状況にないと思う。全体的に上位との差が1~2%と詰まってきており、現場に少しでも視聴率を上げるよう、指示している。

<BS-TBSの連結子会社化>

7月からTBSホールディングスが51%の株式を取得し、連結子会社となった。地上波とBSそれぞれのメディアの特性を活かしつつ、番組・コンテンツの有効利用や営業上の連携、人材も含めた経営資源を共有することによって収益力を高め、放送事業部門を強化していくことが目的だ。

以上